

福島県における持続可能な歩いて暮らせるまちづくりについて

福島県 正会員 伏見 聡

1. はじめに

これまで経験しなかった人口減少や急速な少子高齢化が進む中、自動車の普及等を背景に中心市街地における都市機能の集積が低下し、まちの「顔」といべき中心市街地が衰退している状況にある。

このような状況のもと、これまでの経済効率を優先した「車」中心のまちづくりでは生活利便性の低下、地域の魅力の喪失、環境負荷の増大や自治体財政の悪化をまねく恐れがあり、持続可能な発展が困難となるため、県では「環境への負荷の少ない持続可能なまちづくり」や「歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」の考え方に基づき、平成17年10月に「福島県商業まちづくりの推進に関する条例」(以下「県条例」という)を制定した。

さらに、平成18～19年度には「歩いて暮らせるまちづくり社会実験」を県内4市で実施し、幅広く県民に対して条例の理念等についての意識高揚を図ってきた。

これらを踏まえ、県では「人」中心のまちづくりを一層推進し、「誰もが安心して暮らしやすい魅力的で持続可能なまちづくり」の実現を図るため、平成20年9月にまちづくりの手引書となる「歩いて暮らせる新しいまちづくりビジョン」(以下「ビジョン」という)を策定し、市町村等が行うまちづくりを支援していくこととしている。

本稿では、ビジョンの概要と市町村等が取組む歩いて暮らせるまちづくりの具体的取組を紹介する。

2. 歩いて暮らせる新しいまちづくりビジョンの概要

(1) 基本的考え方

これまでの「車」中心のまちづくりから「人」中心のまちづくりに転換し、人と車が共生し、人と人がふれあい、賑わいのあるまちづくりを多様な主体が連携、協力して総合的に推進していくことで、「誰もが安心して暮らしやすい魅力的で持続可能なまちづくり」を実現することとしている。



(2) 実行戦略

ビジョンにおいては、新しいまちづくりを進めるために5つの実行戦略を掲げている。

- ①新しいまちづくりを進めるための土台づくり (ひと・なかま・計画)
- ②安全・安心・快適に過ごせるまちなか機能の充実
- ③いつでもまちなかを楽しめる魅力ある商業・商店街の再生と賑わい創出
- ④まちなかと田園地域等の共生と地域の資源を生かした交流・観光の促進
- ⑤まちなかへ人が集まり、多様な手段で回遊できる交通システムの構築

(3) 県の役割

まちづくりの主体である市町村や住民の取組みを支援すべく、ビジョンの普及、各種情報提供、地域の特性に応じた支援、ネットワーク化等を実施していく。

3. 平成21年度の市町村等の具体的取組事例

①「土台づくり」の事例 (会津美里町)

会津美里町高田六区の住民が、平成20年度に町商業まちづくり基本構想に基づくコミュニティプラン(会津美里町高田六区商業まちづくり推進計画)を策定した。平成21年度には、当該プランについて



キーワード 歩いて暮らせる新しいまちづくり、「人」中心のまちづくり

連絡先 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16 電話 024-521-7126 FAX024-521-7932

の具体的な取組みを推進するため、福島大学鈴木浩教授及びゼミ生がワークショップを開催した。

なお、ワークショップ結果については、同大学生がかわら版にして地域全体へ周知している。



学生によるかわら版

②「まちなか機能充実」の事例（南相馬市小高区）

JR小高駅近くに「小高浮舟ふれあい広場」及び「ふれあい館」が設置され、住民で組織する運営委員会が小学生とお年寄りとの交流、子育て支援、まちなか賑わいづくりイベントなどの運営をすることにより、だれでも自由に、普段着で立ち寄れる場として活用されている。なお、ふれあい館は、いろいろ、喫茶・軽食、展示販売、多目的ロビー、デマンド交通のe-まちタクシーステーション等の機能を有している。



子育て支援（読み聞かせ状況）



e-まちタクシーステーション

③「商店街の再生と賑わい創出」の事例（白河市）

平成21年3月に県内初の中心市街地活性化基本計画の認定を受け、平成21年度は白河駅構内の「えきかふえ」や街なかの「チャレンジショップ」がオープンするとともに、白河駅前多目的複合施設（図書館等）の整備に着手している。また、歴史の案内板設置やお雛様めぐりなど地域の歴史・文化を生かした回遊を促す取組みが行われている。なお、今後5か年でハード・ソフト合わせて49事業に取り組むこととしている。



えきかふえ



チャレンジショップのパン屋

④「まちなかと田園の共生、観光交流」（新地町）

「食」の分野に重点を置き、地域で統一されたコンセプトを持つ「しんちブランド」の逸品を戦略的に開発、発信していくことを目的として、町内地場産業関係者が主体となって「しんちブランド戦略会議」を立ち上げ、イチジクのアイスクリーム、ニラの餃子、カスベ（エイの一種）の唐揚げなどのブランド開発に取り組んでいる。今後は商品化、販路開拓に取組む予定である。



戦略会議



ニラ餃子



カスベ唐揚げ

⑤「交通システム構築」の事例（会津若松市）

県内有数の観光地である会津若松市では、まちなか観光や市民の足としてのまちなか周遊バス「ハイカラさん」及び「あかべえ」のほか、病院循環バス「ひまわりくん」、合併地域である北会津、河東地域のコミュニティバス「ピカリン号」、「みなづる号」、商店街が運行する「エコろん号」など、各種のバスが運行されている。現在これらを含めた地域公共交通体系の構築に向けて検討が行われている。



ハイカラさん



ひまわりくん

4. 今後に向けて

このようなまちづくりを進めるためには、多くの人たちの連携・協力が重要であり、住む人たちが来街する人々のまちづくりに対する積極的な参加が必要である。その1つの手段として、県内関係者への一層の理解と普及を促すとともに、各団体等の交流と連携を支援すべく、「推進しよう！歩いて暮らせる新しいまちづくり～事例報告交流会～」を2月9日に開催したところである。

今後とも、引き続き市町村や住民の取組みを支援していく所存である。（参考ホームページ）

http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=11016